



2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月6日

上場会社名 ソマール株式会社
 コード番号 8152 URL <http://www.somar.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 曾谷 太
 問合せ先責任者 (役職名) F&A部長 (氏名) 今井原 俊彦

TEL 03-3542-2152

四半期報告書提出予定日 2020年11月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	8,784	16.4	58		35		142	
2020年3月期第2四半期	10,511	8.4	63	88.6	49	91.7	42	

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 102百万円 (%) 2020年3月期第2四半期 79百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	73.23	
2020年3月期第2四半期	21.97	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	18,735	12,162	64.9
2020年3月期	19,875	12,362	62.2

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 12,162百万円 2020年3月期 12,362百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		50.00	50.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正については、本日(2020年11月6日)公表いたしました「連結業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,000	10.0	90	66.7	140	51.3	260	47.9	134.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(2020年11月6日)公表いたしました「連結業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第2四半期連結会計期間より、NiKKi Fron (Thailand) Co., Ltd.を持分法適用の範囲に含めておりません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期2Q	1,958,734 株	2020年3月期	1,958,734 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2021年3月期2Q	18,667 株	2020年3月期	18,631 株
------------	----------	----------	----------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期2Q	1,940,081 株	2020年3月期2Q	1,940,436 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P4'1:当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明、をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(当四半期連結累計期間における子会社等の異動)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、足元では、緩やかな回復の兆しが見受けられるものの、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、世界経済が急減速したことで、事業環境が著しく悪化し、企業業績は極めて厳しい状況が続いております。グローバル市場では中国を中心に景気回復が進展している地域もありますが、欧米各国では、感染再拡大に晒されており、更なる世界経済の悪化に対する懸念や不透明感が日増しに強まっております。今後の国内外の経営環境においては、一定の感染症対策の実施により、経済活動の再開と自粛を繰り返す中で、本年度後半には徐々に持ち直していくと見込んでいますが、本格的な回復には相当な時間を要することが想定されます。

こうした状況下で当社グループは、引き続きグループの特長を生かした事業運営とスピーディーな経営判断を心がけ、関係するグローバルな成長市場とともに、今後市場拡大が見込まれる高速5G通信・半導体・次世代自動車分野等に対する差別化した製商品の拡販、新規顧客の開拓、バイオマテリアルを含めた国内外の産学連携の加速に注力しつつ、顧客に密着した生産・物流体制の更なる改善にも取り組んでまいりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大は、受注環境にも広範な影響を及ぼしており、主要な関係業界の受注動向が減退し、当社グループの業績は低迷することとなりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高が87億8千4百万円（前年同四半期比16.4%減）、営業損失が5千8百万円（前年同四半期は営業利益6千3百万円）、経常損失が3千5百万円（前年同四半期は経常利益4千9百万円）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益が1億4千2百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失4千2百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、以下のとおりであります。

[高機能材料事業]

スマートフォンなどの電子機器業界向け関連製商品の販売では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、新機種端末等の販売動向が低迷した前年度上期の低調な水準から持ち直し、前年度下期と同様の受注環境が継続したことから、関係するコーティング製品やフィルム表面加工製品並びに関連高機能フィルム商品といった差別化製商品の販売が堅調に推移しました。一方で、自動車部品業界向け製商品の販売では、当第2四半期連結累計期間において、主力の自動車部品業界向け電気絶縁用樹脂製品の販売が前年同四半期並みに回復したものの、引き続き、世界市場が低迷したことで、関係業界の受注動向が減退しました。その結果、当事業全体の売上高は64億7千7百万円（前年同四半期比13.9%減）、営業利益は2千3百万円（前年同四半期比85.7%減）となりました。

(主な製商品群の概況)

製商品群	概況（数値は前年同四半期との対比）
コーティング製品	スマートフォン向け製品の販売は、新機種端末等の販売動向が回復しつつあり、複数のカメラを搭載する多眼化ニーズも相まって、光学機器向け遮光部材製造用途の製品や、フィルム表面加工製品の販売が増加しましたが、電子部品・部材製造用の製品の需要が低迷したことから、2.9%の減収となりました。
高機能樹脂製品	建材用途向け樹脂製品の販売は、徐々に売上に寄与しつつあるものの、主力の自動車部品業界向け電気絶縁用樹脂製品や、電気・電子機器のセンサー用樹脂製品の販売は、国内外における新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、当第1四半期において、需要が低迷し売上が減少したことから、12.8%の減収となりました。
電子材料	電子機器向け回路基板材料の販売は、スマートフォン向け需要が回復基調に転じてきているものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、特に、自動車部品業界向け需要が減少したことから、14.7%の減収となりました。
機能性樹脂	自動車部品業界向けの熱可塑性樹脂、回路基板向け熱硬化性樹脂の販売は、特に自動車用途の需要が新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたため、24.3%の減収となりました。

[環境材料事業]

主要な販売先である製紙業界では、新聞・塗工紙の市場が低迷しているものの、板紙・生活産業用紙の使用用途が拡大しており、当社グループにおいても、市場ニーズに応じて、特長を生かした差別化製商品の拡販と新たな用途や周辺市場の開拓等に取り組んでまいりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、主要な顧客である製紙会社での操業が大幅に短縮したことで、当事業における製商品の売上は減少いたしました。

特に、紙塗工用バインダーは、顧客操業の短縮に加え、原油価格及び原料モノマーの大幅な下落に伴う販売価格の引き下げなどにより減収となりました。その結果、当事業全体の売上高は15億4千8百万円（前年同四半期比31.0%減）、営業利益は1百万円（前年同四半期比86.3%減）となりました。

（主な製商品群の概況）

製商品群	概況（数値は前年同四半期との対比）
ファインケミカルズ	堅調な段ボール等の板紙関連や、製紙分野以外の用途向けにも注力して営業活動を推進し実績化しましたが、競合他社との厳しい競争に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、14.5%の減収となりました。
製紙用化学品	一部商品の取り扱いシェアを上昇させたものの、新型コロナウイルス感染症拡大による顧客操業の短縮の煽りを大きく受けるとともに、特に、紙塗工用バインダーが、原油価格や原料モノマーの下落により、大幅に減少したことで、35.6%の減収となりました。

〔食品材料事業〕

食品材料事業では、健康に優しく特長ある天然の食品素材を主要な取り扱い商品としており、的を絞った施策の下に、食品業界などへの拡販に鋭意注力してまいりました。これに加えて、これまでの営業活動で蓄積した食品に関わる様々な情報や技術を活用して、新規商材の発掘や市場の開拓、更には、独自性の発揮できる新規複合食品素材の開発といった新たなテーマにも積極的に取り組んでおります。当第2四半期連結累計期間の販売では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、外食産業の事業環境が悪化したことにより、業務用加工食品向けは落ち込んだものの、家庭用加工食品向けの需要が伸びたことで、増粘安定剤や乾燥野菜の販売は、前年同期四半期を上回りました。その結果、当事業全体の売上高は7億5千4百万円（前年同四半期比5.0%増）、営業利益は8千1百万円（前年同四半期比49.5%増）となりました。

（主な製商品群の概況）

製商品群	概況（数値は前年同四半期との対比）
食品素材等	家庭用加工食品向けの需要増加により、取り扱い商品の販売が伸長したことや、需給がタイトになったことで、増粘安定剤の価格が上昇したこともあり、5.0%の増収となりました。

〔その他の事業〕

当社グループの成長を支える新たな事業領域を開発・育成すべく取り組んでいる「その他の事業」では、アフリカから輸入した生花を国内で販売する等、新たなビジネスチャンスの可能性を追求するとともに、市場開発用に新たな商材などを導入し、試販等による事業化への検討を行っております。当第2四半期連結累計期間における輸入生花の販売では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、原産地国の空港が封鎖され、不定期航空便の空きスペースを利用しての輸入に制限されたことで、取り扱いが減少しました。その結果、「その他の事業」の売上高は3百万円（前年同四半期比85.7%減）、営業損失は5百万円（前年同四半期は営業利益0百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、187億3千5百万円となり、前連結会計年度末と比較して11億4千万円の減少となりました。これは主に、現金及び預金が2億9百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が5億7百万円、電子記録債権が4億5百万円、投資有価証券が1億5千5百万円それぞれ減少したことによるものであります。

（負債）

負債については、65億7千3百万円となり、前連結会計年度末と比較して9億4千万円の減少となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が7億8千2百万円減少したことによるものであります。

（純資産）

純資産については、121億6千2百万円となり、前連結会計年度末と比較して1億9千9百万円の減少となりました。これは主に、利益剰余金が4千5百万円（1億4千2百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益の計上、9千7百万円の剰余金の配当による減少）増加したものの、その他有価証券評価差額金が1億1千9百万円、為替換算調整勘定が1億4千万円それぞれ減少したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末と比較して、3億9百万円減少し、48億3千7百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、2億2千万円の資金増加(前年同四半期は4億3千万円の資金増加)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益2億1千7百万円、減価償却費1億8千1百万円、売上債権の減少額8億9千3百万円等の資金増加要因が、投資有価証券売却益2億5千3百万円、仕入債務の減少額7億7千1百万円等の資金減少要因を上回ったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、3億4千万円の資金減少(前年同四半期は4億5百万円の資金減少)となりました。これは主に、定期預金の預入による支出5億6千5百万円、有形固定資産の取得による支出2億6千3百万円等の資金減少要因が、投資有価証券の売却による収入3億3千6百万円、差入保証金の回収による収入2億円等の資金増加要因を上回ったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、9千8百万円の資金減少(前年同四半期は1億4千8百万円の資金減少)となりました。これは主に、配当金の支払額9千6百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年8月7日公表の「2021年3月期第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」において未定としておりました連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日(2020年11月6日)開示いたしました「連結業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,201,206	5,411,072
受取手形及び売掛金	4,931,344	4,423,837
電子記録債権	1,308,968	903,393
たな卸資産	2,449,678	2,449,665
その他	243,348	200,676
貸倒引当金	△10,580	△8,960
流動資産合計	14,123,965	13,379,684
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,541,209	1,598,068
機械装置及び運搬具(純額)	796,265	710,035
土地	393,431	384,865
建設仮勘定	142,169	72,782
その他(純額)	87,647	102,546
有形固定資産合計	2,960,722	2,868,298
無形固定資産	99,063	107,469
投資その他の資産		
投資有価証券	1,393,103	1,237,971
退職給付に係る資産	58,666	77,765
その他	1,755,894	1,580,161
貸倒引当金	△515,511	△515,479
投資その他の資産合計	2,692,152	2,380,419
固定資産合計	5,751,938	5,356,188
資産合計	19,875,904	18,735,872
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,031,510	2,248,599
未払法人税等	56,970	82,910
賞与引当金	134,188	140,853
その他	720,365	537,460
流動負債合計	3,943,034	3,009,823
固定負債		
長期借入金	3,450,000	3,450,000
資産除去債務	62,067	62,142
退職給付に係る負債	7,564	7,261
その他	50,889	44,239
固定負債合計	3,570,521	3,563,643
負債合計	7,513,556	6,573,467

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,115,224	5,115,224
資本剰余金	4,473,939	4,473,939
利益剰余金	1,844,842	1,889,918
自己株式	△56,964	△57,019
株主資本合計	11,377,042	11,422,062
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	253,305	133,961
繰延ヘッジ損益	△905	1,063
為替換算調整勘定	961,650	820,786
退職給付に係る調整累計額	△228,744	△215,468
その他の包括利益累計額合計	985,306	740,342
純資産合計	12,362,348	12,162,405
負債純資産合計	19,875,904	18,735,872

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	10,511,206	8,784,171
売上原価	8,868,589	7,359,425
売上総利益	1,642,617	1,424,746
販売費及び一般管理費	1,579,607	1,483,289
営業利益又は営業損失(△)	63,010	△58,543
営業外収益		
受取利息	8,432	5,131
受取配当金	25,396	22,181
受取賃貸料	5,587	8,921
その他	8,944	8,074
営業外収益合計	48,361	44,308
営業外費用		
支払利息	15,832	8,441
債権売却損	1,474	1,291
為替差損	27,946	8,215
その他	17,012	3,604
営業外費用合計	62,265	21,552
経常利益又は経常損失(△)	49,106	△35,787
特別利益		
投資有価証券売却益	—	253,497
特別利益合計	—	253,497
税金等調整前四半期純利益	49,106	217,710
法人税、住民税及び事業税	24,229	49,285
法人税等調整額	67,500	26,344
法人税等合計	91,729	75,629
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△42,623	142,080
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△42,623	142,080

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△42,623	142,080
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△17,030	△119,343
繰延ヘッジ損益	1,617	1,968
為替換算調整勘定	△28,541	△140,863
退職給付に係る調整額	6,803	13,275
その他の包括利益合計	△37,151	△244,963
四半期包括利益	△79,774	△102,882
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△79,774	△102,882
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	49,106	217,710
減価償却費	158,574	181,805
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,200	△1,652
賞与引当金の増減額 (△は減少)	9,329	6,626
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△8,368	35
受取利息及び受取配当金	△33,828	△27,312
支払利息	15,832	8,441
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△253,497
売上債権の増減額 (△は増加)	825,464	893,898
たな卸資産の増減額 (△は増加)	203,846	△10,776
仕入債務の増減額 (△は減少)	△726,946	△771,751
その他	△29,964	△22,891
小計	461,843	220,635
利息及び配当金の受取額	36,268	30,448
利息の支払額	△16,004	△8,441
法人税等の支払額	△54,207	△25,064
法人税等の還付額	3,062	3,067
営業活動によるキャッシュ・フロー	430,962	220,645
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△744,030	△565,175
定期預金の払戻による収入	533,435	52,894
有形固定資産の取得による支出	△181,539	△263,682
有形固定資産の売却による収入	283	—
無形固定資産の取得による支出	△1,030	—
投資有価証券の取得による支出	△2,030	△2,072
投資有価証券の売却による収入	—	336,347
関係会社株式の取得による支出	—	△97,659
差入保証金の回収による収入	634	200,706
その他	△10,887	△1,708
投資活動によるキャッシュ・フロー	△405,164	△340,351
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	3,450,000	—
長期借入金の返済による支出	△3,500,000	—
自己株式の取得による支出	△526	△55
配当金の支払額	△95,811	△96,321
その他	△1,992	△1,975
財務活動によるキャッシュ・フロー	△148,329	△98,352
現金及び現金同等物に係る換算差額	△17,870	△91,238
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△140,402	△309,296
現金及び現金同等物の期首残高	4,240,259	5,146,704
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	63,571	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 4,163,427	※ 4,837,407

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金勘定	4,861,320千円	5,411,072千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△697,892	△573,664
現金及び現金同等物	4,163,427	4,837,407

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における子会社等の異動)

当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるSiam Somar Co., Ltd.は、NiKKi Fron (Thailand) Co., Ltd.の株式を取得いたしました。これにより、NiKKi Fron (Thailand) Co., Ltd.は、新たに関連会社となったため、持分法適用の範囲に含めております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症拡大は現在においても継続しており、今後の拡大規模や収束時期等については不確実性が高い事象であると考えております。

当社グループは入手可能な情報に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が、2021年3月期の一定期間にわたり継続するという仮定のもとで、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	高機能材料 事業	環境材料 事業	食品材料 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,523,822	2,243,519	718,316	10,485,659	25,547	10,511,206
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	7,523,822	2,243,519	718,316	10,485,659	25,547	10,511,206
セグメント利益	162,199	13,296	54,830	230,326	278	230,605

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規開発事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
 主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	230,326
「その他」の区分の利益	278
全社費用（注）	△167,595
四半期連結損益計算書の営業利益	63,010

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第2四半期連結累計期間（自2020年4月1日 至2020年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	高機能材料 事業	環境材料 事業	食品材料 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,477,713	1,548,447	754,366	8,780,527	3,643	8,784,171
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	6,477,713	1,548,447	754,366	8,780,527	3,643	8,784,171
セグメント利益又は損失（△）	23,134	1,816	81,966	106,917	△5,881	101,036

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規開発事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
 主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	106,917
「その他」の区分の損失（△）	△5,881
全社費用（注）	△159,579
四半期連結損益計算書の営業損失（△）	△58,543

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。